



澤本正樹教授最終講義 ならびに
澤本教授を囲む会



平成 20 年 3 月 22 日 土曜
仙台国際センター

写真は全て澤本先生が撮影されたものです

澤本正樹先生について

澤本正樹教授は、昭和 20 年に東京都にお生まれになりました。麻布高校を経て東京工業大学に入学され、昭和 43 年 3 月に理工学部土木工学科を卒業ののち、大学院入学後、同年 8 月に東京工業大学工学部の助手に採用されています。1976 年に「振動流の乱流遷移および抵抗係数に関する研究」で学位論文をまとめられました。その後、1980 年 1 月から 2 ヶ月、タイ国にあるアジア工科大学院 (AIT) の客員教員として講義を担当されました。翌年の 1981 年 3 月からの 1 年間には、MIT の土木工学科に客員教員として滞在され、帰国後、土砂水理学を中心に水文学や海岸工学分野の最新情報を国内にもたらしました。1985 年 4 月に東北大学工学部土木工学科の助教授として赴任し、1988 年 2 月に同学科海岸水理学講座の担当教授に任ぜられました。1991 年 7 月から 3 ヶ月間、大韓民国水原市の成均館大学校工科大学土木工学科に滞在し、まだ黎明期であった韓国のリモートセンシングの発展に貢献されました。その後、大学院重点化に伴い、現在の土木工学専攻水環境システム学分野を担当されています。また、1997 年から 2000 年には、東北大学工学研究科情報広報企画室長を務められています。学部教育では水理学、海岸工学等を、大学院では乱流概論や衛星環境計測等を担当し、基礎的なことから実学的な問題を解決するような講義をされてきました。



先生の研究成果として、土砂の流体力学を大きなスケールの問題として捉え、河口の土砂研究を大きく進歩させた功績が挙げられます。河口域は波と流れが共存する複雑な構造を持っていますが、阿武隈川を中心とした長期の現地観測と数値計算から河口砂州の伸縮の表現に成功しています。その後、東北地方の河口を調べる研究プロジェクトを立ち上げ、比較河口学を提唱しました。現在では、この中心である河口研究集会在海外で開かれるようになっていきます。

また、早くから人工衛星のデータを水理・水文現象の解明に利用したことも特筆すべきことです。時系列の画像情報と物理量を結びつける方法を数々考案し、この分野をリードしてきました。河口からの濁質、山岳域の積雪量、森林の蒸発散量、植生生産量等の広域分布図を数多く発表してきました。先生はプログラミングに精通しており、画像解析ソフトを自身で開発し、途上国の技術者に配布することも行われました。

産官学連携についても熱心であり、現在、東北電力原町火力発電所に設置されている「水弁連成式波力発電装置」は、長年にわたって実験、理論構築を続けてきた結果であります。河口研究や大船渡湾の環境改善、融雪出水予測等、多くの産官学の共同研究によって地域の社会基盤整備に貢献されています。

学会活動については、土木学会や水文・水資源学会において評議員や理事を努めるとともに、ネットワークの広さを生かし、土木学会論文集編集委員会委員長および水文・水資源学会編集・出版委員会委員長、表彰専攻委員会委員長として、異なる分野を束ねる役割を十二分に発揮しました。このような学術活動に加え、その専門性と幅広い知識を生かして、東北地方の国土形成の立案に指導的立場から貢献してきました。仙台湾沿岸技術検討

委員会委員長や三陸水系流域委員会委員長，国土交通省東北地方整備局総合評価委員会委員長，阿武隈川河川整備委員会委員長等を務めるとともに，地域貢献として涌谷町洪水ハザードマップ作成委員会委員長や中田町洪水ハザードマップ検討委員会委員長として尽力されました。環境問題に関しても，宮城県自然環境保全審議会会長，蕪栗沼遊水池懇談会座長，蒲生干潟自然再生協議会会長を務め，東北地方の健全な国土計画を見守っておられます。

先生は，現地と現場を重視し，学生を外によく連れ出しました。花鳥木に精通しており，水理現象をこれらに結びつけて理解するよう指導されておられます。阿武隈川河口調査や八甲田積雪調査において，自ら楽しげに観測する姿が印象的であります。

ご退職後は，趣味の山登りと写真による新たな自然現象の解明を期待しております。また，河川整備計画等のお役目も継続して続けられると思われます。これまで同様，ご指導とご鞭撻をお願いするとともに，先生のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。（東北大学環境科学研究科 風間聡）



第2回俺達登山隊。平成19年9月20日。



毎年恒例フィールド見学。森吉山ダム見学。平成19年8月8日

澤本先生との思い出

水環境システム学研究室（旧海岸水理学研究室）の指導数

学士：109人（マレーシア，ケニヤ各1人）

修士：84人（マレーシア，ケニヤ，ボリビア，スリランカ各1人，インドネシア2人）

博士：21人（インドネシア，ロシア，ベトナム，ボリビア各1人，中国2人，韓国，タイ各3人，スリランカ4人）

総数：140人（外国人19人）

（論文審査のみは含まない）

先生は、その昔上岡龍太郎に似ていると言われた。陰ではパペポと呼ぶ輩も。

口癖。「しらなーい」。

ホームページに載っている花鳥木の写真は400枚以上。

今後も澤本先生のホームページを以下で見ることができます。

<http://www.civil.tohoku.ac.jp/~sawamoto/>



平成4年。八甲田積雪調査



平成3年。澤本先生と真野先生



平成元年芋煮。右上は奥様。



平成12年韓国訪問時：OBの申さんと、このすぐ後に金治弘先生が亡くなられた



左から渦岡先生，澤本先生，森杉先生，河野先生，垣内君 平成15年



オマーンの思い出（平成17年）。左：水資源省訪問。右：車に6人乗った際，先生のひざの上ののる奥様